



2022年4月に企業会計基準委員会（ASBJ）の非常勤委員に就任し、7月より常勤委員に就任しました山口奈美と申します。私は、有限責任監査法人トーマツに入社後、監査業務に従事するとともに、法人内の品質管理を統括する部門においてIFRS会計基準の解釈や実務への適用に関する相談業務などに関与してきました。ASBJでは今後、主に国際的な会計基準の開発に関連する意見発信や、IFRS会計基準の適用上の課題への対応を中心に担当させていただきます。

私が初めてASBJと直接のつながりを持つきっかけとなったのは、2012年より開始された会計人材開発支援プログラムへの第1期のメンバーとしての参加でした。会計基準開発の領域について十分な事前知識もないままに参加してしまった私にとっては、課題の難易度が非常に高く、受講の準備に悪戦苦闘することになりましたが、会計基準開発の基礎となる概念フレームワークについて思考したり、立場の異なる参加メンバーの方々と議論したりすることが新鮮で面白く、大変有意義な機会となりました。

2016年から2019年にはASBJに専門研究員として出向し、のれんの会計処理を中心にリサーチ活動や国際的な意見発信に関する業務を担当しました。会計基準アドバイザー・フォーラム（ASAF）会議への参加や米国財務会計基準審議会（FASB）との定期協議に加えて、他の会計基準設定主体との2者間協議が戦略的に行われていたことから、他の会計基準設定主体の代表者との議論に触れる機会を多く得ることができました。それぞれの会計基準設定主体の見解はASBJの見解と近い場合もあれば異なる場合もありましたが、議論の場において強く感じていたことは、会計基準設定主体の代表者が信念をもって見解形成をし、主張をしているということでした。ASBJとしての意見発信も同様であることは言うまでもないことであり、国内の市場関係者間で異なる見解の論拠も踏まえながら事前に議論を尽くすことで見解が強固なものとなり、国内の市場関係者の総意として信念と覚悟をもって主張することで説得力が増していく過程を肌で感じる機会が何度もありました。

国際的な議論の場においても国内での基準開発における議論においても、会計基準開発に携わる関係者は、高品質な財務報告が市場に提供されるために会計基準の高品質化を目指す必要性を強く認識し、それぞれの立場から高品質な会計基準の開発に貢献すべく議論に参加しているという点では、同じ志を共有しているのだと思います。私自身も同じ志を持つ一人として、ASBJの取組みに貢献できるよう尽力して参る所存です。

委員長及び委員の紹介

最後に、有限責任監査法人トーマツにおいても ASBJ においても心から尊敬できる上司であった小賀坂前企業会計基準委員会委員長に、この場をお借りして感謝の念を申し述べます。